

全国鳥類繁殖分布調査

ニュースレター 第5号

2016年7月26日



カワセミ：野辺佳子

いきものログから分布図の閲覧とアンケート入力ができるようになりました

繁殖分布調査の現地調査がスタートしました。これまでに205か所から調査結果が届き、任意定点やアンケート調査の結果も届いています。これらの結果を種別の分布図としてまとめていきますが、その閲覧と、アンケート調査の報告機能を備えたシステムが立ち上がりました。環境省の「いきものログ」のなかの全国鳥類繁殖分布調査の特設サイトです。

○ いきものログへの参加方法

いきものログの特設サイトを利用するためには、利用者登録が必要です。すでに「いきものログ」を利用されている方は、登録メールアドレスを、まだ登録していない方は、登録したい旨を事務局 (bbs@bird-research.jp) までご連絡ください。

○ 分布図を見ることができます

ユーザ登録が済むと、仮パスワードの連絡が来ます。それを使って以下のサイトにログインすることができるようになります。

<http://bird-atlas.biodic.go.jp>

「アンケート調査」>「報告を見る」を押し、見たい種を指定することで、その鳥の現在の分布図を見ることができます。

○ アンケート調査を入力することができます

アンケート調査の結果を報告するうえで、観察した場所の緯度経度やメッシュ番号を調べるのがちょっと面倒でした。いきものログを使うことで、そこが楽になります。いきものログでは、地図から観察した場所やメッシュ(1kmメッシュ, 10kmメッシュ)を簡単に指定することができるようになったのです。

バードウォッチングの記録など、観察記録をご報告いただけるのはもちろんのこと、各種鳥類の分布図を見て、「このメッシュにはオオルリが生息していないことになっているけど、いるよ!」のように、分布図を埋めるような形で、アンケート報告もできるようになっています。ぜひ正確な分布図づくりにご協力ください。

登録方法、使い方については、マニュアルを用意してありますので、そちらをご覧ください。ぜひ、いきものログへの登録とアンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

<http://www.bird-atlas.jp/data/ikirogu.pdf>



図1. いきものログでは各種鳥類の分布図を見ることができる

ジョウビタキにご注意ください！

最近ジョウビタキの繁殖が各地で確認されています。北は北海道から南は岡山まで記録されており、どこで記録されてもおかしくありません。「いる」と思わないと見落とすしてしまうことも多いので、注意して観察してみてください。



ジョウビタキ 撮影：山路公紀

先日、免停講習に行くはめになりました。原付だとスピード違反で徐々にポイントがたまっていった「免停」になってしまいますよね。その時の講習で事故を防ぐために強調されていたのが「かもしれない運転」です。「子供が飛び出してくるかもしれない」とか予測して運転しないと事故になってしまうので、危険を予測して運転しなさいということです。これは、鳥の調査にもあてはまるな、と思いました。この場所にはいないと思っている鳥がいたりすると、見落としたり、識別できなかったりしてしまうからです。ぼくも以前、山の中で渡り途中でさえずっているコヨシキリに出会ったことがあったのですが、何の鳥なのか、判別することができませんでした。

今、そんなふうに見落とされたり、「不明鳥」として記録されてしまいそうな鳥がいます。それがジョウビタキです。ジョウビタキは普通に越冬している冬鳥ですが、最近日本の各地で繁殖し始めているのです(図1)。北は北海道から南は岡山まで。そのほかにも、新潟県や栃

木県でも夏期に観察されており、どこで繁殖していてもおかしくありません。

これまで繁殖が記録されているのは標高の高い場所の別荘などの人家や物置などの建物です。別荘地などで調査をする場合は「かもしれない観察」を心がけてください。

ジョウビタキのさえずりは以下より聞くことができますので、予習して調査してみてください。

http://www.bird-research.jp/1_shiryokoe/jobitaki_150503_shiga.mp3



図1. 近年のジョウビタキの繁殖記録地点

9月17日 日本鳥学会札幌大会で自由集会を開催

今年の日本鳥学会の大会は、9月16日から19日まで、北海道札幌市の北海道大学で開催されます。この大会の中で、繁殖分布調査の自由集会を開催します。

鳥の調査に関心のある人たちの年に一度のお祭りみたいな会ですので、ご興味ある方はぜひご参加ください。

また、札幌周辺にお住まいの方で、大会に参加まではしないけれど、繁殖分布調査に関わっている人たちと交流したいという方は、自由集会終了後に、懇親会をする予定ですので、そちらの方に、ぜひご参加ください。懇親会の案内は、8月下旬か9月上旬ころにメールでもお知らせします。

【植田睦之】

日本鳥学会大会

2016年9月16日(金)～19日(月・祝日)

北海道大学 札幌キャンパス

大会HP <http://osj-2016.ornithology.jp/index.html>

自由集会 日本の鳥の今を明らかにしよう

2016年9月17日(土) 夜

内容 広域分布変化からよみとく鳥たちの変化
鳥類群集解析から見えてくるもの
高標高帯に生息する鳥種の現状把握
東京都鳥類繁殖状況調査の成果

講演要旨: <http://www.bird-atlas.jp/news/gakkai16.pdf>

メモリ録音機による失敗例

メモリ録音機が普及してきたことで、簡単に野鳥録音が楽しめるようになりました。ところが、簡単便利に録音できるようになった故の失敗も増えています。今回の繁殖分布調査では、メモリ録音機を使った夜行性鳥類の調査をしていますが、これを機に自身でも録音をはじめるといいます。そこでミスなく録音できるよう、録音の失敗例をご紹介します。



オオヨシキリ 撮影:野辺佳子

メモリ録音機が普及してきたことで、簡単に野鳥録音ができるようになりました。昔のように大きなパラボラや録音機を持って山登りをしなくてすむだけでも、この時代に生きていて良かったと思います。

私の初期の録音はDAT録音機でした。いつテープが無くなるか、バッテリーが上がってしまうか、絶えずチェックしてはなりません。それだけに、録音機を手に持ち録音状態を見ていました。また、ヘッドフォンでモニターしていましたので、思いもよらぬノイズが入ることもありません。ですから、録音失敗なんてまずありませんでした。ところが、メモリ録音機になり簡単便利に録音できるようになっただけに失敗をするようになりました。繁殖分布調査では、PanasonicのXS455を使ったタイマー録音を夜行性の鳥の調査に使用していますが、これを機にご自身でもタイマー録音をはじめるといいます。そこで、機種を特定しないで、ありがちな失敗事例を紹介します。

録音したつもりが・・・

いちばん多いのは「録音したつもりが何も音が入っていない！」ことです。この事態は、鳥が良く鳴いてくれたり、珍しい鳥がやっと鳴いてくれたときだと、とてもショックです。これは、録音機を置くことで、鳥に余計な影響を与えたくないで、録音状態をろくに確認をしないでその場を急いで離れるため、よくやります。

録音機の機種によっては、録音ボタンを押しただけでは録音が始まらず、プレック機能が働きます。プレックは、数秒間録音していて再度録音ボタンを押すとその数秒も含めて録音される機能です。慌てて離れたら、数秒しか録音されていないということがよくあります。

音が来ていることとカウンターが進んでいることを確認してから、録音機から離れるようにしましょう。

私は、置くときにストップボタンを誤って押ししまい録音されていないことがありました。録音が進行しているのを置いた後も確認して離れるか、ロックあるいはホールドをかけることで回避することができます。

音が録れていなかったり、小さかったり・・・

「カウンターが進んでいたのに、音が入っていなかった」ということもあります。これは内蔵マイクと外部入力切り替えが付いている録音機では外部入力になっていると、録音されないためです。

また、録音された音が極端に小さいこともあります。これは、大きな音を録音するときのために、マイクの感度を下げる機能「アッテネーター」が大きな音用に切り替わっているためです。機種によっては、高いを表すH、低いLと表示されているものもあります。これらのスイッチが、スライドで切り替わるようなタイプのものは、粘着テープで動かないようにするとよいです。

バッテリー交換の罠

多くの機種では、最初に時計を合わせるように指示がでます。この時計合わせを間違えると、タイマー録音のときに設定した時刻に録音されないこととなります。12時間単位なのか24時間単位なので間違えることもあります。

気を付けなくてはいけないのは、バッテリー交換で手間取ると時計がリセットされてしまうことです。これに気がつかないで、タイマー録音をしてしまい指定の時間でなくときに録音されたことがあります。

低い声が録れていない

また、低音ノイズの軽減や風音カットなどの低い音をカットする機能がある録音機があります。だいたい100Hz以下の音をカットします。しかし、100Hz以下で鳴くサンカノゴイやフクロウ類がいますので、この機能は使

わないようにしたほうが良いでしょう。なお、低音ノイズが必要なければ、後で編集ソフトを使って軽減ないしカットすれば同じ効果を得ることができます。

ゴミ箱は削除されていない

機種によっては、ゴミ箱機能があります。これは、削除した音源ファイルを消さないでゴミ箱に移動する機能です。そのため、ゴミ箱を空にしないと、削除したつもりでも録音できる時間は元に戻りません。私は、ゴミ箱を掃除しなかったために一晩録音するつもりが、2、3時間しか録音されていなかったことがありました。

また、メモリが飛び出ているのに気がつかないで、設置し、本体メモリの分しか録音できなかつたこともありました。特に、小さなマイクロSDでは要注意です。

バッテリーはいつかなくなる

最近の機種ではバッテリーの持ちも良くなりましたので、電池切れで録音されていないということは少なくなりました。ただ、油断していると録音できていないミスがおきます。そういうミスをなくすためにはeneloopなどの充電式の電池を使い、余裕を持って電池交換するとよいです。カタログに30時間持つと書いてあっても、実際はバッテリーの寿命、温度などもあって20時間が良いところ。一晩10時間使ったら電池は交換しましょう。

録音機が見つからない

長時間録音では、置いたはずの録音機をあつて見つけるのに苦労することがあります。見つからないように隠して置くのですから、なおさらです。明るい内に置き、暗くなってから探す場合は、かなり見つけづらいです。

また、目印に岩や花を目印に置いて、次の日に行くと同じような岩や花がたくさんあつて苦労したことは何度もあります。そのため、最近ではマーキングテープを近くの枝などにまいておきます。このテープは、山道の目印によく使われているピンク色のビニール製テープでホームセンターなどで売っています。代わりに、梱包用のビニール紐を利用しても良いと思います。ただし、用が済んだら回収することを忘れないようにしましょう。

タヌキに齧られたり、臭いをかいでいく音が入っていることもよくあり、獣やカラス類は録音機に興味を持つようです。録音機を持って行かれないために、近くの枝やクイに紐で縛り付けるようにしています。

万が一

山の中など、自然の中では人に見つかることはまずありません。しかし、市街地の雑木林やあるいは公園での録音は、人に見つかる可能性があります。今のところ、持って行かれる、壊されるなどのトラブルはありませんが、万が一に備えて録音機を入れたタッパには、注意書きを貼り付けています。

天候との戦い

タイマー録音は、降雨や積雪が予報されているときには行いません。しかし、夏はにわか雨でジャマーのスポンジを絞ったら水がしたたり落ちるほど濡らしてしまったことがあります。しかし本体が濡れなければとりあえず録音はできています。マイクが濡れることで将来的に不具合がでる可能性があります。まずは乾燥させることをお勧めします。

なお、録音機本体はビニール袋にいれ輪ゴムで口を締めます。それを、タッパウエアやパーツケースなどのプラスチック製の容器に入れて、少しでも雨や湿気の影響を受けないようにします。それでも、マイク部分は外に出しておかなければなりませんので、雨の当たりにくい岩や倒木の下に置くようにしています。

また、録音機を縦に置くと上からの水が染みこみ、全体が濡れてしまいます。まずは、雨が当たらないような倒木や岩の蔭に置くこと、そして横にすることなど工夫が必要です。

また寒いところから暖かいところに持ち込んだ場合の結露にも注意が必要です。双眼鏡のレンズが曇るくらいならば、録音機のマイクや基盤も濡れてしまう可能性があります。これは、ゆっくりと温度に適応させるよう、それぞれの場合で工夫してください。

思わぬノイズー自然編

風は高い所ほど強く、低い所ほどありません。木の枝の上に置くと風の音を拾いますので、録音機は地面に近い、万が一雨が降ったときにも雨のあたらない目立たない場所に置きます。地面に置くと、地面を伝わってくる音が大きなノイズになることがあります。たとえば、小さな流れでも水音が大きく入ります。市街地ですと、U字溝の流れ、マンホールの下は水が流れていますので、それも地面を伝わり大きな音になります。

また、録音機はできたら何もないような場所に置くようにします。そばにササやヨシなどがあると風で葉がすれ

る音が大きく入ります。また、夏から秋は鳴く虫の音が大きくはいりますので、さけるようにしましょう。

思わぬノイズー人工編

電柱は目印になるので、その近くに置くことがあると思います。しかし、高圧線は霧や雨に当たると音を立てます。また、トランスは絶えず「ブーン」という音を出しているのです、トランスのある電柱のそばは避けましょう。

ガラケー時代に、携帯電話が着信したときに家のスピーカーが「ズブズブ」という音を出しました。それ以来、録音中は携帯電話からノイズが入る可能性があるため切っています。最近、録音仲間から、スマホにしたら基地局との交信をしているノイズが入るとの情報ももらいました。いずれにしても、録音中は携帯電話はOFFにしておくことをお勧めします。

故障

基本的に、メモリ録音機は損壊や故障が少ないです。DAT録音機では、膝の上から落とすだけでテープが飛び出し、修理代3.5万とか簡単にかかりました。現在まで何種類ものメモリ録音機を手元、胸の高さから落としています、電池蓋が外れて電池が飛び出したことがあるくらいで、動かなくなったことはありません。

私が経験した数少ない故障は、SONY PCM-D1で片チャンネルが録音されないという現象がありました。これは、マイク端子の不備ということで交換されました。友人では、SONY PCM-D50で録音されないという故障で、基板交換というのがありました。

YAMAHA W24では、タイマー録音で最初の数分だけ録音されるものの勝手にシャットダウンしてしまう現象が友人から報告されました。どうもマイクロSDの相性のようで、メーカーサイトにある推奨されているメーカー、型番のマイクロSDに変えたところ、今のところ大丈夫とのことです。

このほか、故障ではありませんが、ジャマーの紛失はよくやります。基本、付けにくくて取れやすい構造に

なっています。後ろを歩いている人が拾ってくれたこともありますし、翌日行ったら落ちていたということもありました。慌てて拾いにもどったけれど、見つけられなかったこともあります。スポンジ製のジャマーは、安いでの予備を持っています。布製は高いので、山用品のお店で売っている帽子の落下防止用のクリップでストラップとジャマーをつないで落とさないようにしています。

作業は、コンピュータで

今のところ、誤って大事なファイルを削除してしまったことはありませんが、いちおうのご注意です。録音機本体で、ファイルの削除をはじめフェードイン、フェードアウトなど編集できる機種もあります。小さな液晶を見ながらの作業は、ミスを誘発する可能性がありますので、基本的にはコンピュータにデータを移しバックアップを取ったうえで編集ソフトを使って作業すべきでしょう。

設定したら作動の確認を

タイマー録音は早起きしなくても録音できるありがたい機能です。そのかわり録音されていない事態に何度も見舞われています。前述のように時間設定が誤っていた、バッテリーがなかった、ゴミ箱機能のためメモリの残りがなかった、タイマー設定をミスったなど何度もやっているのですから、お恥ずかしい限りです。

いずれにしても、ちゃんと設定したとおり録音されているか実験してからフィールドでの本番を行うようにしましょう。このほか録音設定なども、どのように音が録れているのかの確認してから、実際の録音をするようにしたほうが良いと思います。簡単便利なだけにどこにミスも誘発する畏がしかけてあるのか、またその畏にはまらないよう確かめる気持ちで実験してみてください。

タイマー録音は野鳥たちの別の姿や顔を知ることができます。野鳥録音で広がる世界をお楽しみください。

(松田道生)

全国鳥類繁殖分布調査ニュースレター 第5号

2016年 7月26日 発行

編集: 植田睦之, 尾中潔, 柏崎安男, 小峯昇, 友澤圭介, 藤田薫

© バードリサーチ・日本野鳥の会・日本自然保護協会・日本鳥類標識協会・山階鳥類研究所・

環境省生物多様性センター

URL <http://www.bird-atlas.jp> <https://www.facebook.com/birdatlasjp> https://twitter.com/bird_atlasjp